

# **Sun Blade X4-2B Linux** オペレーティング システムインストールガイド

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

このドキュメントの使用方法 .....	5
Sun Blade X4-2B モデル名 .....	5
最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得 .....	5
ドキュメントとフィードバック .....	6
このドキュメントについて .....	6
サポートとトレーニング .....	7
寄稿者 .....	7
変更履歴 .....	7
Linux OS のインストールについて .....	9
サポートされている OS のバージョンおよび最新情報 .....	9
OS のインストールオプション .....	10
Oracle System Assistant .....	12
OS のインストールの準備 .....	15
インストールメディアキットのダウンロード .....	15
インストール方法のセットアップ .....	17
BIOS の設定 .....	21
オペレーティングシステムのインストール .....	25
論理および物理ネットワークインタフェース名の特定 .....	25
Linux OS のインストール (Oracle System Assistant) .....	30
Linux OS の手動によるインストール .....	34
サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新 .....	40
Linux OS の新しいバージョンへの更新 .....	43
索引 .....	47



# このドキュメントの使用法

---

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 5 ページの「Sun Blade X4-2B モデル名」
- 5 ページの「最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得」
- 6 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 7 ページの「サポートとトレーニング」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

## Sun Blade X4-2B モデル名

名前は Sun Blade **X4-2B** サーバーモジュールを識別します。

- 1: アルファベットの X は x86 製品を示します。
- 2: 最初の数字 4 はサーバーの世代を示します。
- 3: 2 番目の数字 2 は、プロセッサの数を示します。
- 4: アルファベットの B は、製品がブレードサーバーであることを示します。

## 最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant - これは、Sun Oracle x86 サーバー用の、出荷時にインストール済みのオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。
- My Oracle Support - <http://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト

詳細については、『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

## ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Sun Blade X4-2B サーバーモジュール	<a href="http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs">http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs</a>
X4 サーバーシリーズのシステム管理	X4 シリーズサーバー向け Oracle x86 管理ガイド ( <a href="http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs">http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs</a> )
Oracle System Assistant	X4 シリーズサーバー向け Oracle x86 管理ガイド ( <a href="http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs">http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs</a> )
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	<a href="http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs">http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs</a>
Oracle Hardware Management Pack	<a href="http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs">http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs</a>
シャーシ Sun Blade 6000 モジュラーシステム	<a href="http://www.oracle.com/goto/SB6000/docs">http://www.oracle.com/goto/SB6000/docs</a>

このドキュメントについてのフィードバックは <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

## このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

## サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート:<http://support.oracle.com>
- トレーニング:<http://education.oracle.com>

## 寄稿者

主著者: Lisa Kuder、Ray Angelo、Mark McGothigan

寄稿者: Mike Ma、Qing-su Hu、Lu Wei、Cynthia Chin-Lee、Michael Tabor、Ralph Woodley

## 変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2013 年 9 月初版。



# Linux OS のインストールについて

---

注 - Oracle Linux がインストール済みの Sun Blade X4-2B サーバーモジュールがある場合、オペレーティングシステムの構成方法については、Sun Blade X4-2B サーバーモジュールインストールガイドを参照してください。

---

次のタスクの表を使用して、Sun Blade X4-2B に Linux のサポートされているバージョンをインストールします。

手順	説明	リンク
1	サーバーの最初の設置および設定の手順を実行します。	『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』
2	サポートされているオペレーティングシステムの一覧を含め、サーバーの最新のハードウェアおよびソフトウェア情報を確認します。	『Sun Blade X4-2B プロダクトノート』
3	単一のサーバーまたは複数のサーバーでの OS のインストールのオプションを確認します。	10 ページの「OS のインストールオプション」
4	OS のインストールプロセスでの Oracle System Assistant の役割を確認します。	12 ページの「Oracle System Assistant」
5	必要な手順を実行して、OS のインストールの準備を行います。	15 ページの「OS のインストールの準備」

---

## サポートされている OS のバージョンおよび最新情報

このセクションを使用して、Linux OS のサポートされているバージョンおよび最新のサーバー関連情報を取得する方法について学習します:

- 10 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」
- 10 ページの「プロダクトノートの最新情報」

## サポートされている Linux オペレーティングシステム

サーバーのリリースの時点では、次の Linux オペレーティングシステムがサポートされています。

- Oracle Linux (x64-bit): 5.8、5.9、および 6.4
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES): SLES 11 SP2、SP3
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) (x64 ビット): 6.4

サポートされている最新のバージョンについては、次を参照してください。

[https://wikis.oracle.com/  
display/SystemsComm/Sun+Blade+Systems+Products#tab:Operating-Systems](https://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Blade+Systems+Products#tab:Operating-Systems)

### 関連情報

- [10 ページの「プロダクトノート」の最新情報](#)

## プロダクトノートの最新情報

サーバーに関する最新情報は、『Sun Blade X4-2B プロダクトノート』で保持されています。プロダクトノートドキュメントには、サポートされているオペレーティングシステム、入手可能なファームウェア更新、およびサーバーのハードウェアまたはソフトウェアの問題についての詳しい情報が記載されています。詳細は、『Sun Blade X4-2B プロダクトノート』(<http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs>)を参照してください

## OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、これら 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して複数のシステムにインストールする方法については、次を参照してください。 <a href="http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html">http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html</a>

オプション	説明
単一のサーバー	<p>次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。シャーンにサーバーを物理的に設置し終えたばかりの場合は、このオプションを使用します。追加のハードウェアが必要です。</li> <li>リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されます。Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動による OS のインストールを実行します。</li> </ul> <p>注 - Oracle System Assistant は、単一のサーバーでの OS のローカルまたはリモートインストールのためのもっとも簡単な方法です。</p>

### 関連情報

- [11 ページの「単一サーバーへのインストール方法」](#)
- [12 ページの「Oracle System Assistant」](#)

## 単一サーバーへのインストール方法

Linux インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、Linux 配布メディア。詳細については、 <a href="#">12 ページの「補助付き OS インストール」</a> を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、リダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、Linux 配布メディア。詳細については、 <a href="#">12 ページの「補助付き OS インストール」</a> を参照してください。
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、Linux 配布メディア。詳細については、 <a href="#">12 ページの「手動による OS インストール」</a> を参照してください。

メディアの配布方法	その他の要件
リモートでの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD の ISO イメージの使用 - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上の、リダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを実行しているリモートシステム、物理 CD/DVD ドライブが接続されていること、Linux 配布メディア、サーバーの管理ポートに対するネットワークアクセス。詳細については、 <a href="#">12 ページの「手動による OS インストール」</a> を参照してください。

## 補助付き OS インストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするためのもっとも簡単な方法です。この方法では、Oracle System Assistant アプリケーションを使用します。ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで Linux OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant がインストールプロセスを進め、必要に応じて必要なドライバをインストールします。Oracle System Assistant は、使用しているサーバーでサポートされている必要があり、そのサーバーにインストールされている必要があります。

## 手動による OS インストール

この方法では、ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで Linux 配布メディアを提供します。必要なドライバを提供する必要もあります。サーバー用のドライバは、My Oracle Support サイトから OS 固有およびサーバー固有のパッケージとして入手できます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

### 関連情報

- [12 ページの「Oracle System Assistant」](#)

## Oracle System Assistant

Oracle System Assistant は、システムに組み込まれた USB ストレージデバイス上にサーバーの一体部分として提供され、スタンバイ電源を供給すればすぐに使用できます。この埋め込みのストレージデバイスには、サポートされるオペレーティングシステムおよびハードウェアを自分で選択してサーバーの使用を開始するために必要なものがすべて含まれています。オペレーティングシステムのインストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant でほかのすべてのものが提供されます。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです：

- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- オペレーティングシステムが使用するドライバとツール

- サーバー固有のファームウェア
- Hardware Management Pack
- サーバー関連ドキュメント

関連情報:

- 13 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」
- 13 ページの「Oracle System Assistant の取得」

## Oracle System Assistant の OS のインストールタスク

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている Linux OS のインストールに役立ちます。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant の手順に従ってインストールプロセスを実行できます。続いて、サーバーハードウェア構成に基づいて、適切なドライバをインストールします。

Oracle System Assistant にはローカルでもリモートでもアクセスできます。サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant を (物理的にサーバー側にいる間に) ローカルで使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーの稼働後は、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

関連情報

- 13 ページの「Oracle System Assistant の取得」

## Oracle System Assistant の取得

ほとんどの場合、Oracle System Assistant はサーバーにすでにインストールされています。サーバーに Oracle System Assistant がインストールされているかどうかを判断する方法、または更新およびリカバリ手順を実行する方法の詳細は、次を参照してください。

『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

関連情報

- 15 ページの「OS のインストールの準備」



# OS のインストールの準備

---

このセクションの手順を使用して、OS のインストールの準備を行います。

手順	タスク	リンク
1	OS インストールのタスクの表をすでに確認している必要があります。	9 ページの「Linux OS のインストールについて」
2	OS のインストールメディアキットをダウンロードします。	15 ページの「インストールメディアキットのダウンロード」
3	選択したインストール方法に基づいてインストールのセットアップを行います。	<ul style="list-style-type: none"><li>ローカルインストールの場合: 17 ページの「ローカルインストールのセットアップ」</li><li>リモートインストールの場合: 18 ページの「リモートインストールのセットアップ」</li></ul>
4	最適なデフォルト値をロードし、BIOS モードを選択して、BIOS を準備します。	21 ページの「BIOS の設定」
5	OS をインストールします。	25 ページの「オペレーティングシステムのインストール」

## インストールメディアキットのダウンロード

このセクションでは、Linux インストールメディアの次のダウンロード手順について説明します。

- 16 ページの「Oracle Linux メディアキットのダウンロード」
- 16 ページの「SLES メディアキットのダウンロード」
- 16 ページの「RHEL メディアキットのダウンロード」

## ▼ Oracle Linux メディアキットのダウンロード

- 1 Oracle Linux の場合は、Oracle e-delivery サイトにアクセスします:<http://edelivery.oracle.com/linux>
- 2 アカウントを作成します (まだ作成していない場合)。  
更新された ISO イメージをダウンロードするアカウントが必要になります。
- 3 Oracle Linux を検索してダウンロードします。

次の手順 [21 ページの「BIOS の設定」](#)

## ▼ SLES メディアキットのダウンロード

- 1 Novell アカウント情報を取得します。  
ISO イメージをダウンロードするには Novell アカウントが必要です。
- 2 SUSE Linux Enterprise Server メディアキットを <http://download.novell.com> からダウンロードします。

次の手順 [21 ページの「BIOS の設定」](#)

## ▼ RHEL メディアキットのダウンロード

- 1 企業アカウント情報を入手します。  
更新された ISO イメージをダウンロードするには、企業アカウントが必要です。
- 2 Red Hat Enterprise Linux Update メディアキットを <http://rhn.redhat.com> からダウンロードします。

次の手順 [21 ページの「BIOS の設定」](#)

# インストール方法のセットアップ

- 17 ページの「ローカルインストールのセットアップ」
- 18 ページの「リモートインストールのセットアップ」

## ▼ ローカルインストールのセットアップ

OS のローカルインストールはサーバーで実行されます。ローカルインストール方法として推奨される手順は、Oracle System Assistant の OS のインストールタスクを使用することです。この手順を使用して、ローカルの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはローカルの手動 (補助なし) インストールを設定します。

---

注 - OS のローカルインストールの場合、追加のハードウェアが必要で、サーバーの Web アクセスが推奨されます。

---

- 始める前に
- 『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の説明に従って、サーバーのインストールを実行します
  - 次の項目を入手します。
    - 15 ピン (DB-15) コネクタ機能を備えたビデオモニター
    - USB キーボードとマウス
    - USB デバイス (CD/DVD ドライブまたはサムドライブ)
    - マルチポートドングルケーブル
  - サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーの Web アクセスが推奨されます。
- 1 サーバーがスタンバイ電力モードであることを確認します。
  - 2 サーバーモジュールの前面にあるユニバーサルコネクタポート (UCP) に 3 ケーブルドングルを接続します。
  - 3 ビデオモニターを 3 ケーブルドングルのビデオコネクタに接続します。
  - 4 キーボードおよびマウスをサーバーの前面の USB 接続のいずれかに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。
  - 5 CD/DVD ドライブをサーバーの前面にあるほかの USB コネクタに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。

次の手順 21 ページの「BIOS の設定」

## ▼ リモートインストールのセットアップ

リモート OS インストールは、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションおよびリダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは CD ISO イメージを使用して実行されます。リモートインストールのもっとも簡単な方法は、Oracle System Assistant の補助付き OS インストールタスクを使用することです。この手順を使用して、リモートの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはリモートの手動(補助なし)インストールを設定します。

---

注- CD-ROM または CD-ROM イメージのオプションを使用して OS をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするため、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。また、このインストール方法では、一時的なネットワークエラーにより問題が生じるリスクが高くなります。

---

始める前に 次の要件を満たしている必要があります。

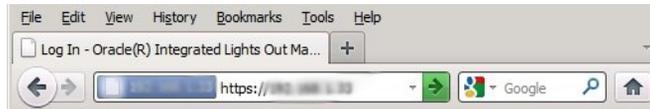
- 『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の説明に従って、サーバーのインストールをすでに実行しているはずですが。
- リモートコンソールシステムは、Solaris、Linux、または Windows で実行されている必要があります。
- Sun サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークにリモートコンソールシステムが接続されている必要があります。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.5 がインストールされている必要があります。
- リモートコンソールシステムが Solaris を実行している場合は、リモートコンソールが CD/DVD-ROM ドライブにアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- リモートコンソールシステムが Windows を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にします。
- サーバースerviceプロセッサ (SP) が、使用しているサーバーの Oracle ILOM ドキュメントの手順に従ってセットアップ済みです。
- Oracle ILOM にアクセスするための SP IP アドレスが必要です。
- サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるように、サーバーの Web アクセスが必要です。

---

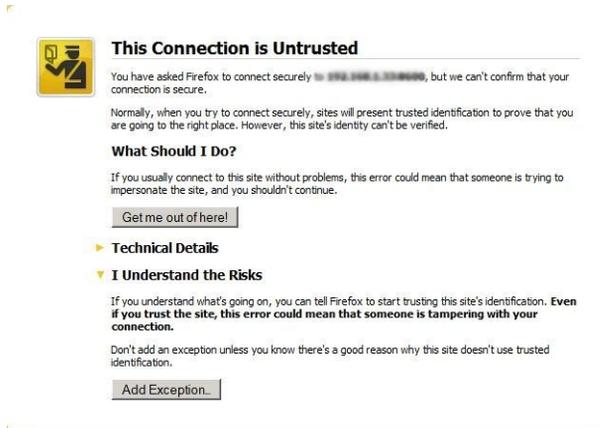
注- この手順に示されているスクリーンショットの一部は、表示される画面とは異なる場合があります。

---

- 1 Oracle ILOM にアクセスするには、リモートコンソールシステムでブラウザにサービスプロセッサの IP アドレスを入力します。

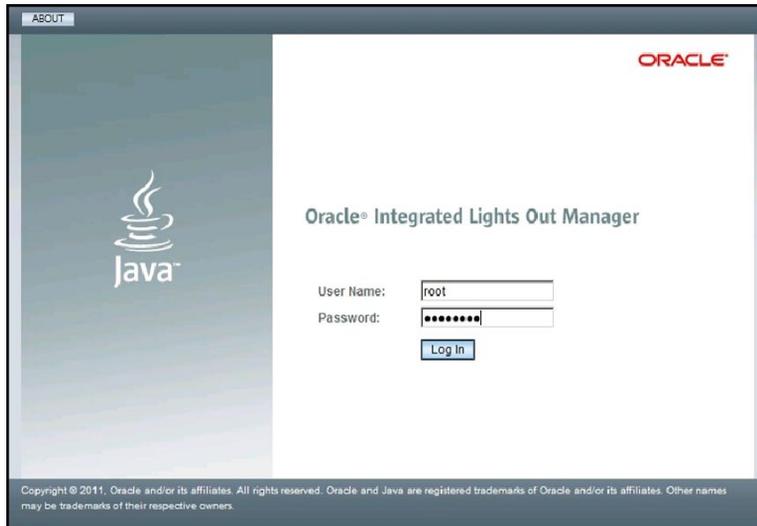


「Security Alert」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 「I Understand the Risks」リンクをクリックします。

- 「Add Exception」をクリックします。  
Oracle ILOM のログイン画面が表示されます。



- ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。  
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。  
Oracle ILOM の「System Summary」画面が表示されます。

General Information	
System Type	Blade
Model	SUN BLADE 6000 MODULAR SYSTEM
Part Number	541-4239-01
Serial Number	0000000-000000000
Component Model	Sun Blade X4-2B
Component Part Number	541-4239-01
Component Serial Number	101829382
Chassis Address	10.182.93.82
Chassis Description	sun-blade-x4-2b
System Identifier	-
System Firmware Version	3.1.2.34
Primary Operating System	Oracle System Assistant 1.0.0.81005
Host Primary MAC Address	08:00:00:00:00:00
Blade Slot	Slot 5
ILOM Address	10.182.93.100
ILOM MAC Address	78:00:00:00:00:00

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: Two Intel Xeon Processor E5 V2 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	OK	Installed RAM Size: 128 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 8 / 24
Power	OK	Permitted Power Consumption: 454 watts Actual Power Consumption: 76 watts	PSUs (Installed / Maximum): 2 / 2
Cooling	OK	Inlet Air Temperature: 24 °C Exhaust Air Temperature: 32 °C	Chassis Fans (Installed / Maximum): 12 / 12 PSU Fans (Installed / Maximum): Not Supported / Not Supported
Storage	OK	Installed Disk Size: 279 GB Disk Controllers: 1	Internal Disks (Installed / Maximum): 1 / 4
Networking	OK		Installed Ethernet NICs: 2
I/O Modules	OK		Installed FEMs (Installed / Maximum): 1 / 2 Installed REMs (Installed / Maximum): 1 / 1

- 5 「Remote Console Launch」 ボタンをクリックします。  
jnlpgenerator.jnlp ファイルのダイアログボックスが表示されます。



- 6 「Open」 をクリックします。  
「Remote Console」 画面が表示されます。



- 7 「Devices」 メニューから、選択した配布方法に従って1つのCD項目を選択します。
  - **CD-ROM リモート**。リモートコンソールシステムに接続された CD/DVD-ROM ドライブからオペレーティングシステムソフトウェア CD/DVD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
  - **CD-ROM イメージ**。リモートコンソールシステム上にあるオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image」を選択します。

次の手順 ■ [21 ページの「BIOS の設定」](#)

## BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認すべきです。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- [22 ページの「BIOS の最適なデフォルト設定のロード」](#)
- [22 ページの「BIOS モードの設定」](#)

## ▼ BIOS の最適なデフォルト設定のロード



注意- この手順では、BIOS の設定をデフォルト値にリセットし、以前にカスタマイズした設定をすべて上書きします。カスタマイズされた設定を維持するには、デフォルト値をロードする前に、各メニューを確認し、カスタマイズされた値を書きとめます。

BIOS 設定ユーティリティーには、サーバーにとって最適な BIOS 設定をロードするためのオプションが含まれています。この手順を新しく設置されたサーバーで実行して、BIOS が最適なデフォルト値に設定されるようにします。

始める前に

- サーバーにはストレージドライブが適切に取り付けられています。
- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、17 ページの「インストール方法のセットアップ」を参照してください。

- 1 サーバーの電源を入れます。  
コンソールに POST メッセージが表示されます。
- 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。  
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
- 3 出荷時のデフォルト値が設定されるようにするには、**F9** を押します。
- 4 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10** を押します。

次の手順 22 ページの「BIOS モードの設定」

## ▼ BIOS モードの設定

BIOS ファームウェアは、Legacy BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方のブートモードをサポートしていますが、デフォルト設定は Legacy ブートモードです。オペレーティングシステムによっては、Legacy BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているものもあれば、Legacy BIOS のみをサポートしているものもあります。

次の Linux OS バージョンでは UEFI ブートモードがサポートされています。

- Oracle Linux 6.x
- RHEL 6.x
- SLES 11.x

次の Linux OS バージョンでは、UEFI ブートモードはサポートされていません。

- Oracle Linux 5.x
- RHEL 5.x
- SLES 10.x

次は、OS をインストールする前に BIOS モードを設定するためのオプションです。

- OS が Legacy BIOS ブートモードのみをサポートしている場合は、OS のインストールを行う前に、BIOS がレガシーモードに設定されていることを確認する必要があります。
- OS が Legacy BIOS と UEFI BIOS の両方のブートモードをサポートしている場合は、OS のインストールを実行する前に、レガシーモードと UEFI モードのいずれかに BIOS を設定できます。

- 1 サーバーの電源を入れます。  
コンソールに POST メッセージが表示されます。
- 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して **BIOS 設定ユーティリティー** にアクセスします。  
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
- 3 **BIOS 設定ユーティリティー** で、左右の矢印キーを使用して「**Boot**」画面に移動します。  
「**Boot Menu**」画面が表示されます。
- 4 下矢印キーを使用して、「**UEFI/BIOS Boot Mode**」フィールドを選択します。
- 5 **Enter** キーを押し、上下の矢印キーを使用して「**Legacy BIOS**」オプションを選択します。
- 6 変更を保存して **BIOS 設定ユーティリティー** を終了するには、**F10** を押します。

次の手順 [25 ページの「オペレーティングシステムのインストール」](#)



# オペレーティングシステムのインストール

---

このセクションでは、OS のインストール手順について説明します。

手順	説明	リンク
1	「OS のインストールの準備」セクションをすでに確認済みである必要があります。	15 ページの「OS のインストールの準備」
2	必要に応じて、論理および物理ネットワーク名を取得します。	25 ページの「論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」
3	選択した方法を使用して OS をインストールします。	<ul style="list-style-type: none"><li>30 ページの「Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)」</li><li>34 ページの「Linux OS の手動によるインストール」</li></ul>
4	サーバーのツールとドライバを更新します。	40 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」
5	OS を新しいバージョンに更新します。	43 ページの「Linux OS の新しいバージョンへの更新」

---

## 論理および物理ネットワークインタフェース名の特定

ネットワークに接続されたサーバー用にオペレーティングシステムを構成しているときは、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。

このセクションでは、これらの状況で必要な論理情報を取得する方法について説明します。次のトピックについて説明します。

- 26 ページの「論理および物理ネットワークインタフェース名の特定 (Oracle Linux または RHEL)」
- 27 ページの「論理および物理ネットワークインタフェース名の特定 (SLES)」

## ▼ 論理および物理ネットワークインタフェース名の特定 (Oracle Linux または RHEL)

Oracle または Red Hat Enterprise Linux OS のインストール時および構成時に、ネットワークインタフェースの論理名および物理名 (MAC アドレス) を入力しなければならない箇所があります。

このセクションでは、Linux の構成時にユーザーシェルを起動して、構成を続行するために必要な論理および物理ネットワークインタフェース名を取得する方法について説明します。

- 1 ブートプロンプトで、**linux rescue** と入力し、**Enter** を押します。  
「Choose a Language」画面が表示されます。
- 2 「Choose a Language」画面で、適切な言語を選択して、「OK」をクリックします。  
「Keyboard Type」画面が表示されます。
- 3 「Keyboard Type」画面で、適切な構成を選択してから「OK」をクリックします。  
「Setup Network」画面が表示されます。
- 4 「Setup Network」画面で、「No」をクリックします。  
「Rescue」画面が表示されます。
- 5 「Rescue」画面で、「Skip」をクリックします。  
ユーザーシェルが表示されます。

- 6 コマンドプロンプト (#) で、すべてのネットワークインタフェースを表示するために、次のコマンドを入力して **Enter** を押します。

```
# ifconfig -a
```

Linux 名前付きネットワークインタフェースの出力が表示されます。

複数のネットワークインタフェースが存在して、インタフェースの出力が画面に入りきらない場合には、インタフェースごとに出力を表示できます。

- 7 各ネットワークインタフェースの出力を表示するには、コマンドプロンプトで次を入力してから **Enter** キーを押します。

```
# ifconfig eth#
```

ここで、*eth#* はインタフェース番号です。たとえば、次のように入力した場合:

```
# ifconfig eth0
```

**eth0** の出力が表示されます。

```
eth0  Link encap:Ethernet  HWaddr 00:14:4F:8D:52:BE
       inet addr:10.182.92.196  Bcast:10.182.93.255  Mask:255.255.254.0
       inet6 addr: fe80::214:4fff:fe8d:52be/64  Scope:Link
       UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
       RX packets:14461296 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
       TX packets:1061312 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
       collisions:0 txqueuelen:1000
       RX bytes:1282625453 (1.1 GiB)  TX bytes:118834056 (113.3 MiB)
       Interrupt:54  Base address:0xc000
```

- 最初の列の **eth0** エントリは、**Oracle Linux** 論理名付きインタフェースを指します。出力の最初の列は、**Oracle Linux** または **RHEL** がネットワークインタフェースに割り当てた論理名を表します。
  - 第2列(1行目)の **00:14:4F:8D:52:BE** エントリは、ネットワークポートの物理 **MAC** アドレスです。
- 8 あとから参照できるように、論理ネットワークインタフェース名と物理ポートの **MAC** アドレスを記録します。**Oracle Linux** または **RHEL OS** のインストール時にネットワークインタフェースを構成する際に、この記録を参照する必要があります。
  - 9 完了後、次のいずれかを行なって、ユーザーシェルを終了します。
    - **Oracle ILOM** で、「**Remote Control**」 > 「**Remote Power Control**」 > 「**Reset**」を選択します。
    - **Oracle ILOM** リモートコンソールの「**Keyboard**」メニューで、「**Ctrl Alt Delete**」を選択します。
    - その他のコンソールでは、**Ctrl-Alt-Delete** を押します。
  - 10 **OS** インストールプログラムを再起動します。

- 次の手順
- [30 ページの「Linux OS のインストール \(Oracle System Assistant\)」](#)
  - [34 ページの「Linux OS の手動によるインストール」](#)

## ▼ 論理および物理ネットワークインタフェース名の特定 (SLES)

SUSE Linux Enterprise Server OS のインストール時および構成時に、ネットワークインタフェースの論理名および物理名 (MAC アドレス) を入力しなければならない箇所があります。

このセクションでは、SUSE Linux OS の構成時にユーザーシェルを起動して、構成を続行するために必要な論理および物理ネットワークインタフェース名を取得する方法について説明します。

始める前に ラベルから、すべての物理ポートの MAC アドレスを見つけて記録します。

- 1 まだ行なっていない場合は、「**Rescue System**」を選択して、**Enter** を押します。  
メッセージ `Loading Linux Kernel` が表示され、それに続いて SUSE スプラッシュ画面、「**Choose a Keyboard Map**」画面が表示されます。
- 2 「**Choose a Keyboard Map**」画面で、適切なキーボード構成を選択して、「**OK**」をクリックします。  
ユーザーシェルが起動して、「**Rescue Login**」プロンプトが表示されます。
- 3 「**Rescue Login**」プロンプトで、**root** と入力してログインし、**Enter** を押します。  
レスキュープロンプトが表示されます。
- 4 レスキュープロンプト (#) で、次のコマンドを入力してから **Enter** を押して、すべてのネットワークインタフェース(アクティブおよび非アクティブ)を表示します。

```
# ifconfig -a
```

Linux SUSE の名前付きおよび物理名付きネットワークインタフェースの出力が表示されます。見つかった各インタフェースについて、次の例のような出力が一覧表示されます。

```
eth0 Link encap:Ethernet HWaddr 00:14:4F:8D:52:BE
      inet addr:10.182.92.196 Bcast:10.182.93.255 Mask:255.255.254.0
      inet6 addr: fe80::214:4fff:fe8d:52be/64 Scope:Link
      UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
      RX packets:14463420 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
      TX packets:1061441 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
      collisions:0 txqueuelen:1000
      RX bytes:1282809896 (1.1 GiB) TX bytes:118848836 (113.3 MiB)
      Interrupt:54 Base address:0xc000
```

```
eth1 Link encap:Ethernet HWaddr 00:14:4F:8D:52:BF
      BROADCAST MULTICAST MTU:1500 Metric:1
      RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
      TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
      collisions:0 txqueuelen:1000
      RX bytes:0 (0.0 b) TX bytes:0 (0.0 b)
      Interrupt:21 Base address:0x2000
```

```
eth2 Link encap:Ethernet HWaddr 00:14:4F:8D:52:C0
      BROADCAST MULTICAST MTU:1500 Metric:1
      RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
      TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
      collisions:0 txqueuelen:1000
      RX bytes:0 (0.0 b) TX bytes:0 (0.0 b)
      Interrupt:44 Base address:0x6000
```

```

eth3  Link encap:Ethernet  HWaddr 00:14:4F:8D:52:C1
      BROADCAST MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
      RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
      TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
      collisions:0 txqueuelen:1000
      RX bytes:0 (0.0 b)  TX bytes:0 (0.0 b)
      Interrupt:47 Base address:0xa000

lo    Link encap:Local Loopback
      inet addr:127.0.0.1  Mask:255.0.0.0
      inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
      UP LOOPBACK RUNNING  MTU:16436  Metric:1
      RX packets:44421 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
      TX packets:44421 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
      collisions:0 txqueuelen:0
      RX bytes:4976408 (4.7 MiB)  TX bytes:4976408 (4.7 MiB)

```

- 最初の列の `eth0` エントリは、オペレーティングシステムによって割り当てられた Ethernet インタフェースの論理名です。最初の列の `lo` エントリは、ループバックインタフェースです。
- 第2列(1行目)の `HWaddr 00:14:4F:8D:52:BE` エントリは、ネットワークポートの物理 MAC アドレスです。

複数のネットワークインタフェースが存在して、インタフェースの出力が画面に入りきらない場合には、インタフェースごとに出力を表示できます。

```
# ifconfig eth#
```

ここで、`eth#` はインタフェース番号です。

- 5 あとから参照できるように、**SUSE** 論理ネットワークインタフェース名と物理ポートの **MAC** アドレスを記録します。  
Linux SUSE OS のインストール時にネットワークインタフェースを構成する際に、この記録を参照する必要があります。
- 6 レスキューシェルを終了するには、次のいずれかを行います。
  - **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「**Remote Control**」 > 「**Remote Power Control**」 > 「**Reset**」を順に選択します。
  - ほかのコンソールのレスキュープロンプト(＃)で、**reboot** と入力して **Enter** キーを押します。
- 7 **SLES** インストールプログラムを再起動します。

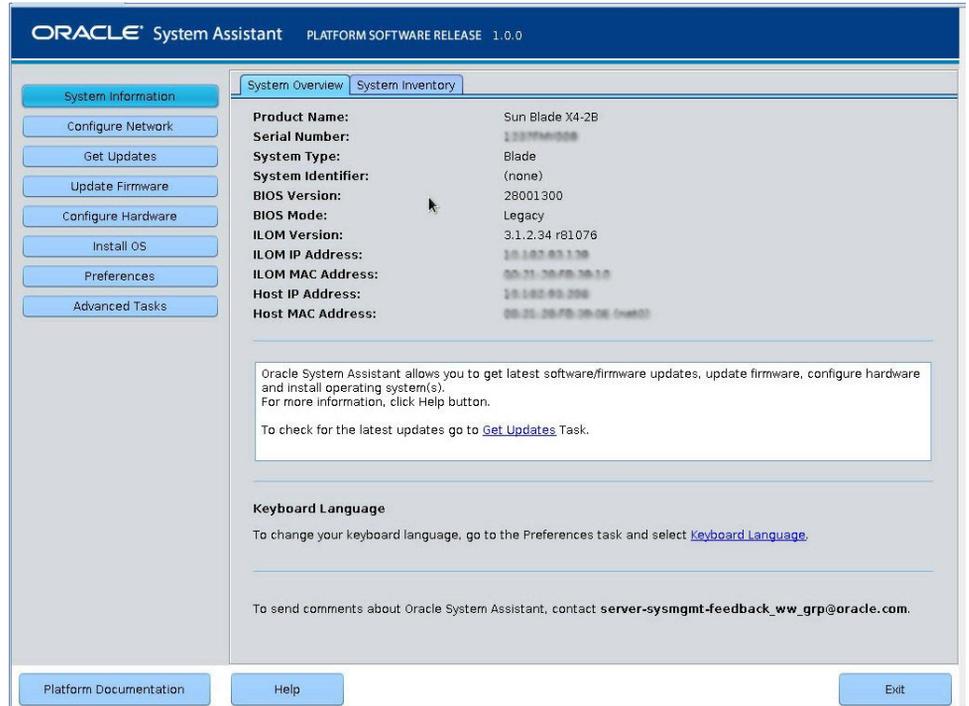
- 次の手順
- 30 ページの「Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)」
  - 34 ページの「Linux OS の手動によるインストール」

## ▼ Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている Linux OS のバージョンの補助付き OS インストールを提供します。

- 始める前に
- サーバーストレージドライブを準備します。詳細は、『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』を参照してください。
  - 15 ページの「[OS のインストールの準備](#)」の手順を実行します。
  - OS のインストールおよび構成プロセス中、論理および物理ネットワーク名を指定することが必要な場合があります。詳細は、25 ページの「[論理および物理ネットワークインタフェース名の特定](#)」を参照してください。
  - ローカルインストールの場合は、プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。
  - リモートインストールの場合は、リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。リモートコンソールの「Devices」メニューから、CD-ROM を選択していることを確認してください。
  - ISO イメージを使用する場合は、リモートコンソールシステムからアクセスできることを確認します。リモートコンソールの「Devices」メニューから、「CD-ROM Image」を選択していることを確認してください。
- 1 サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。
  - 2 サーバーをブートし、ビデオモニターまたはリモートコンソール画面を注視して、F9 キーを押して **Oracle System Assistant** を起動するように求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。

- 3 プロンプトが表示されたら **F9** キーを押します。  
Oracle System Assistant のメイン画面が表示されます。

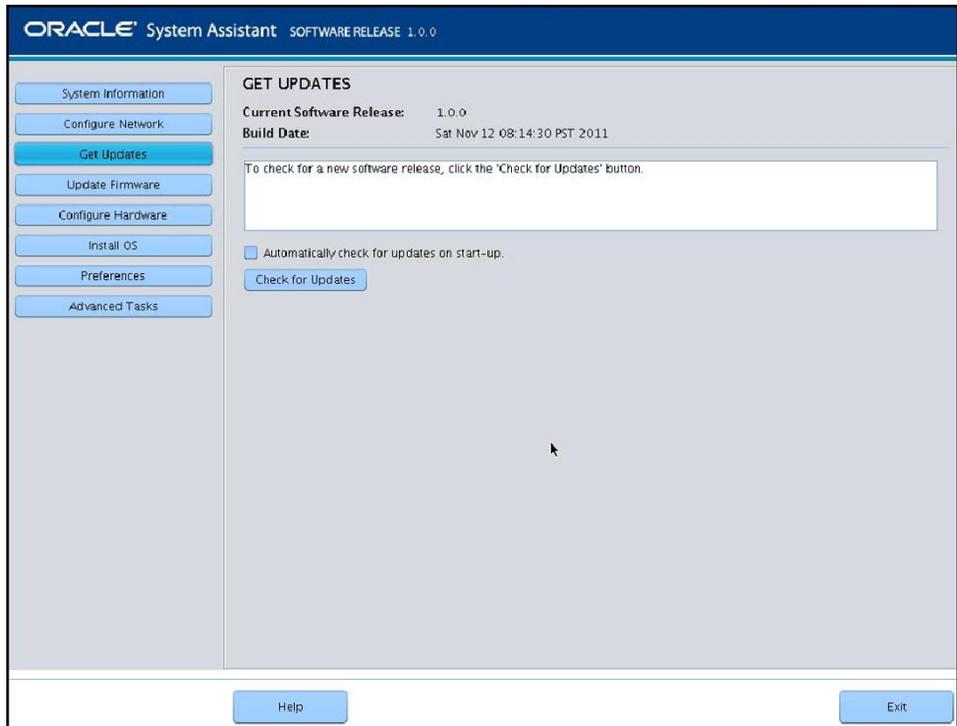


- 4 Oracle System Assistant アプリケーションを更新するには、「Get Updates」ボタンをクリックします。  
このアクションにより、OS のインストール開始前に、アプリケーションのファームウェアおよびドライバが確実に最新のものになります。

---

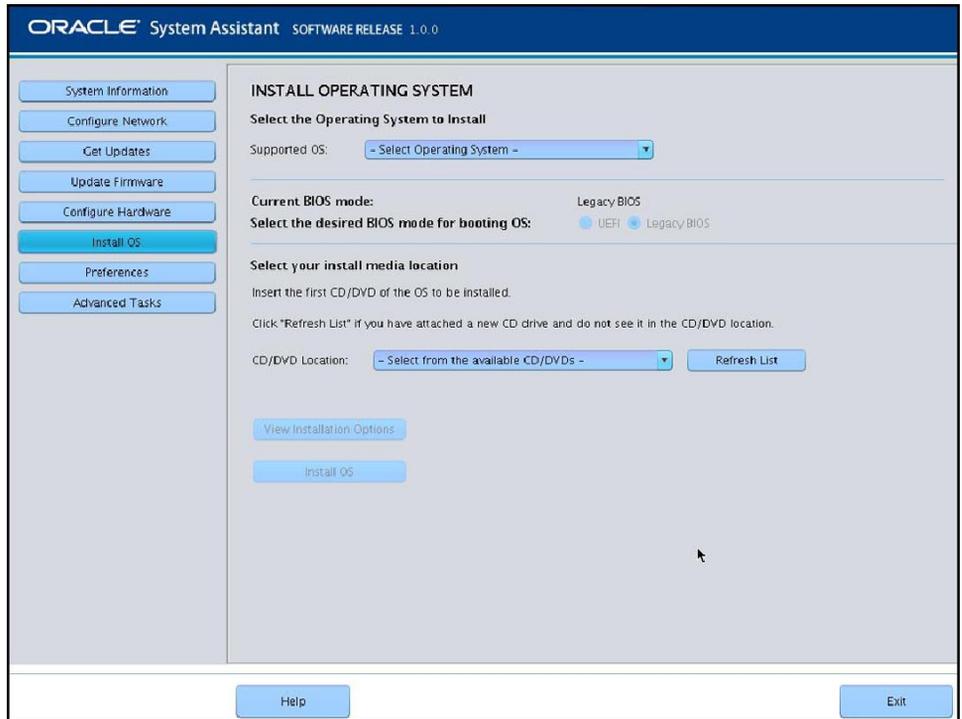
注 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

---



- 5 サーバーのファームウェアを更新するには、「**Update Firmware**」ボタンをクリックします。  
このアクションにより、OSのインストール開始前に、サーバーのファームウェアが確実に最新のものになります。

- OSをインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。  
「Install OS」画面が表示されます。



- 「Select Operating System」ドロップダウンリストから、OSを選択します。
- BIOSモードを選択します。詳細。21 ページの「BIOSの設定」を参照してください。
- 「Select your install media location」セクションで、インストールメディアの場所を指定します。  
これはOS配布メディアの場所です。CD/DVDドライブを接続した場合は、ドロップダウンリストに表示するために「Refresh」ボタンのクリックが必要になることがあります。
- デバイスを選択するには、「View Installation Options」をクリックします。  
これは、OSをインストールするデバイスです。



注意-データの損失。OSのインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

- OSのインストールを開始するには、「Install OS」をクリックします。

- 12 プロンプトに従ってインストールを完了します。  
サーバーがブートします。

次の手順 40 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」

## Linux OSの手動によるインストール

Linux OS をインストールするためのもっとも簡単な方法は、Oracle System Assistant アプリケーションを使用することです。詳細については、30 ページの「Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)」を参照してください。

次のセクションの手順を使用して、Oracle System Assistant の補助なしで、Linux OS を手動でインストールします:

- 34 ページの「Oracle Linux の手動によるインストール」
- 36 ページの「SLES の手動によるインストール」
- 38 ページの「RHEL の手動によるインストール」

### ▼ Oracle Linux の手動によるインストール

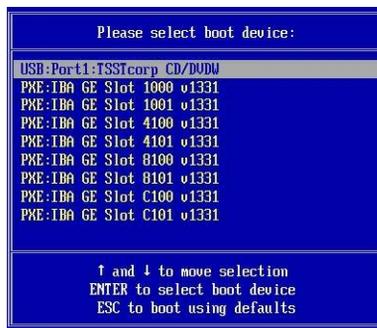
この手順を使用して、Oracle System Assistant を使わずに Oracle Linux OS をインストールします。

- 始める前に
- 15 ページの「OS のインストールの準備」セクションの手順を実行します。
  - このインストールを完了するには、次の Oracle Linux インストールに関する記事が必要です。
    - Oracle Linux 5 の場合は、次にアクセスします。  
<http://www.oracle-base.com/articles/linux/OracleEnterpriseLinux5Installation.php>
    - Oracle Linux 6 の場合は、次にアクセスします。  
<http://www.oracle-base.com/articles/linux/OracleLinux6Installation.php>
- 1 **My Oracle Support** から OS 固有の ZIP パッケージファイルをダウンロードします。『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。
  - 2 ファイルをサーバーからアクセス可能な場所に解凍します。  
これらは、サーバー用の OS 固有のドライバおよび追加ソフトウェア (ツール) です。フォルダファイルシステム構造の詳細は、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。
  - 3 **Linux 配布 DVD** を挿入するか、または **ISO イメージ配布メディア** にアクセスします。

- 4 サーバーの電源を入れるか、リセットします。  
コンソールに BIOS メッセージが表示されます。



- 5 メッセージで一連の選択肢が表示されたら、**F8** キーを押します。  
しばらくすると、メニューにブートデバイスの選択肢が表示されます (次の例を参照)。



- 6 リストからブートデバイスを選択します。  
物理 CD/DVD または ISO イメージからブートするには、「CD/DVD」を選択します。  
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。
- 7 使用するインターフェースのタイプによって、ブートプロンプトで次のいずれかを実行します。
  - テキストモード:  
boot: linux text コマンドを入力します。

- グラフィカルモード:  
ブートプロンプトでEnterを押します。
- 8 インストールを完了するには、この手順の最初に記載されているバージョン固有のインストールに関する記事を参照してください。

---

注 - Linux 以外にインストールされているオペレーティングシステム (たとえば Oracle Solaris OS) があれば、インストールプロセスでパーティションとして表示されます。そのパーティションに Oracle Linux をインストールすると、OS が上書きされます。そのパーティションを保持する場合は、Oracle Linux を別のパーティションにインストールする必要があります。

---

次の手順 [40 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」](#)

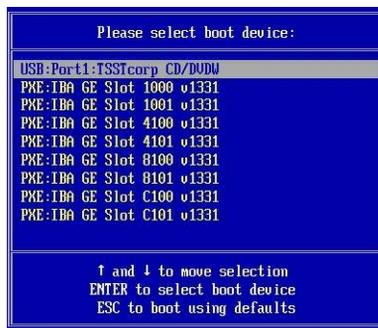
## ▼ SLESの手動によるインストール

- 始める前に
- [15 ページの「OS のインストールの準備」](#) セクションの手順を実行します。
  - ネットワークに接続されたサーバー用にオペレーティングシステムを構成しているときは、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定する必要があります。詳細は、[25 ページの「論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」](#) を参照してください。
  - メディアキットに含まれている SLES OS インストールガイドを入手します。
- 1 **My Oracle Support** から OS 固有の ZIP パッケージファイルをダウンロードします。『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』の「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。
  - 2 ファイルをサーバーからアクセス可能な場所に解凍します。  
これらは、サーバー用の OS 固有のドライバおよび追加ソフトウェア (ツール) です。ファイルシステム構造の詳細は、『[Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド](#)』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。
  - 3 **Linux 配布 DVD** を挿入するか、または **ISO イメージ配布メディア** にアクセスします。

- 4 サーバーの電源を入れるか、リセットします。  
コンソールに BIOS メッセージが表示されます。



- 5 メッセージで一連の選択肢が表示されたら、**F8** キーを押します。  
しばらくすると、メニューにブートデバイスの選択肢が表示されます (次の例を参照)。



- 6 リストからブートデバイスを選択します。  
物理 CD/DVD または ISO イメージからブートするには、「CD/DVD」を選択します。  
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。
- 7 OS インストールガイドの手順に従って、システムソフトウェアのインストールを完了します。

---

注 - Linux 以外にインストールされているオペレーティングシステム (たとえば Solaris OS) があれば、インストールプロセスでパーティションとして表示されます。そのパーティションに SLES をインストールすると、OS が上書きされます。パーティションを保持する場合は、SLES を別のパーティションにインストールする必要があります。

---

次の手順 [40 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」](#)

## ▼ RHEL の手動によるインストール

- 始める前に
- [15 ページの「OS のインストールの準備」](#) セクションの手順を実行します。
  - ネットワークに接続されたサーバー用にオペレーティングシステムを構成しているときは、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定する必要があります。詳細は、[25 ページの「論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」](#) を参照してください。
  - メディアキットに含まれている OEM OS インストールガイド。
- 1 **My Oracle Support** から OS 固有の ZIP パッケージファイルをダウンロードします。『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』の「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。
  - 2 ファイルをサーバーからアクセス可能な場所に解凍します。  
これらは、サーバー用の OS 固有のドライバおよび追加ソフトウェア (ツール) です。ファイルシステム構造の詳細は、『[Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド](#)』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。
  - 3 **Linux 配布 DVD** を挿入するか、または **ISO イメージ配布メディア** にアクセスします。

- 4 サーバーの電源を入れるか、リセットします。  
コンソールに BIOS メッセージが表示されます。



- 5 メッセージで一連の選択肢が表示されたら、**F8** キーを押します。  
しばらくすると、メニューにブートデバイスの選択肢が表示されます (次の例を参照)。



- 6 リストからブートデバイスを選択します。  
物理 CD/DVD または ISO イメージからブートするには、「CD/DVD」を選択します。  
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。
- 7 使用するインタフェースのタイプによって、ブートプロンプトで次のいずれかを実行します。
  - テキストモードの場合、**boot: linux text** コマンドを入力します。
  - グラフィカルモードの場合、ブートプロンプトで **Enter** を押します。

- 8 インストールプロセスのこれ以降の手順については、『RedHat Enterprise Linux Installation Guide』を参照してください。

---

注 - Linux 以外にインストールされているオペレーティングシステム (たとえば Solaris OS) があれば、インストールプロセスでパーティションとして表示されます。そのパーティションに RHEL をインストールすると、OS が上書きされます。パーティションを保持する場合は、RHEL を別のパーティションにインストールする必要があります。

---

次の手順 [40 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」](#)

## サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新

これらの手順では、Oracle System Assistant またはダウンロードした OS 固有のソフトウェアパッケージに含まれているソフトウェアを使用して、サーバーシステムツールにアクセスし、システムドライバを更新する方法について説明します。

- [40 ページの「サーバーシステムツールのインストール」](#)
- [41 ページの「システムドライバの更新またはインストール」](#)

### ▼ サーバーシステムツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack、LSI MegaRAID Storage Manager、MegaCLI などのサーバーシステムツールは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードした Linux OS ソフトウェアパッケージに含まれています。この手順を使用して、ツールをインストールします。

- 1 次のいずれかを実行します。
  - システムに **Oracle System Assistant** がない場合:
    - a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。  
詳細は、『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。
    - b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。

- c. 解凍されたディレクトリファイルシステム内で、**Linux OS Tools** フォルダに移動します。

`Linux/OS_name/version/Tools/tool`

ここで、`OS_name` は、インストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、SLES (SUSE) など) で、`version` は、インストールされた Linux OS のバージョンで、`tool` は、ツール (MSM、MegaCLI、hmp-tools など) です。

- システムに **Oracle System Assistant** がある場合:

- a. OS 内でファイルブラウザを開き、**Oracle System Assistant** の USB デバイスに移動します。

USB デバイスの名前: `ORACLE_SSM`

- b. 次のパス構造を使用して、適切な **Linux OS Tools** フォルダに移動します。

`Linux/OS_name/version/Tools/tool`

ここで、`OS_name` は、インストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE)) で、`version` は、インストールされた Linux OS のバージョン、`tool` は、ツール (MSM、MegaCLI、または hmp-tools) です。

- 2 ソフトウェアツールをインストールするには、ツールのディレクトリにある **.txt** ファイルを参照してください。

詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- Oracle Hardware Management Pack の場合は、次を参照してください。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>

- LSI MSM の場合は、次を参照してください。

[http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg\\_x\\_sas6-r-rem-z.aspx](http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-rem-z.aspx)

次の手順 41 ページの「システムドライバの更新またはインストール」

## ▼ システムドライバの更新またはインストール

Oracle System Assistant は、OS のインストールプロセス中に、サポートされているほとんどのドライバをインストールします。OS のインストール後に個々のドライバをインストールまたは更新する、またはすべてのドライバを更新するには、`.rpm` ファイルまたは Linux OS InstallPack アプリケーションをそれぞれ使用します。InstallPack アプリケーションおよび `.rpm` ファイルは、USB ドライブ上の Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードした OS 固有のソフトウェアパッケージに含まれています。

1 次のいずれかを実行します。

■ システムに **Oracle System Assistant** がある場合:

a. OS から、**Oracle System Assistant** の USB デバイスに移動します。

USB デバイスの名前: ORACLE\_SSM

b. 次のパス構造を使用して、適切な **Linux OS** フォルダに移動します。

`Linux/OS_name/version`

ここで、`OS_name` は、インストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE))、`version` は、インストールされた Linux OS のバージョンです。

■ システムに **Oracle System Assistant** がない場合:

a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。

詳細は、『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』の「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。

b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。

c. 解凍されたディレクトリファイルシステム内で、**Linux OS InstallPack** フォルダに移動します。

`Linux/OS_name/version/InstallPack`

ここで、`OS_name` は、インストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE))、`version` は、インストールされた Linux OS のバージョンです。

2 次のいずれかを実行します。

■ すべてのサポートされているドライバを更新またはインストールするには、**InstallPack** ディレクトリに移動し、**InstallPack.py** ファイルを実行します。

`Linux/OS_name/version/InstallPack`

InstallPack アプリケーションの指示に従い、ドライバの更新を完了します。

■ その他のドライバを更新またはインストールするには、ドライバディレクトリに移動し、**.rpm** ファイルをダブルクリックします。

`Linux/OS_name/version/Drivers/driver`。ここで、`driver` は、ドライバを含むディレクトリ名です。

## Linux OS の新しいバージョンへの更新

次のセクションの手順を使用して、Linux OS を新しいバージョンに更新します。

- 43 ページの「Oracle Linux オペレーティングシステムバージョンの更新」
- 43 ページの「SLES オペレーティングシステムバージョンの更新」
- 44 ページの「RHEL オペレーティングシステムバージョンの更新」

### ▼ Oracle Linux オペレーティングシステムバージョンの更新

始める前に サーバーに Oracle Linux がインストールされている必要があります。

- Oracle Linux オペレーティングシステムの更新方法を選択します。
  - Oracle Unbreakable Linux Network (ULN) のインストールの場合は、ローカル yum リポジトリを作成し、yum と up2date を構成して、そこから更新パッケージをインストールします。  
<http://public-yum.oracle.com/> を参照してください。
  - Unbreakable Linux Network サポートなしの Oracle Linux インストールの場合は、Oracle Public yum サーバーと yum クライアントを使用して更新をインストールします。  
<http://public-yum.oracle.com/> を参照してください。

---

注-この yum サーバーの使用には、いかなるサポートも提供されません。エラー、セキュリティパッチ、およびその他の更新が必要な場合は、<http://linux.oracle.com/> にある Oracle Unbreakable Linux Network (ULN) を使用してください。

---

### ▼ SLES オペレーティングシステムバージョンの更新

この手順では、YaST を使用して SLES を更新します。

YaST は、テキストモードとグラフィカルモードの両方で動作可能です。ここでの指示は、両方に適用されます。

始める前に Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 製品のアクティベーションコードを取得します。

- 1 スーパーユーザーとしてログインします。

- 2 **YaST** オンラインアップデートサービスを開きます。

```
# you
```

YaST ユーザーウィンドウが表示されます。

- 3 ネットワークファイアウォールに保護されていて、インターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合には、正しいプロキシ情報で **YaST** を構成します:

- a. 「**Network Services**」タブをクリックします。

- b. 右側に表示されている「**Proxy**」画面をクリックします。

- c. **HTTP** フィールドと **HTTPS** フィールドの両方に、正しいプロキシ **URL** を入力します。

- d. **YaST** を終了します。

- e. 次のコマンドを入力します:

```
# rug set-prefs proxy-url proxy URL
```

ここで、*proxy URL* は、プロキシサーバーの完全修飾 URL です。例:

```
http:// proxy.yourdomain:3128/
```

- f. **YaST** を再起動します。

- 4 **Novell Customer Center** に登録するには、次の手順に従います。

- a. 「**Software**」タブをクリックします。

- b. 「**Novell Customer Center Configuration**」を選択し、指示に従います。

これには、**Novell Customer Center** のユーザー名とパスワード、および **SLES** 製品のアクティベーションコードが必要です。

- 5 ソフトウェアの更新を実行するには、「**Online Update**」タブを選択します。

## ▼ **RHEL** オペレーティングシステムバージョンの更新

始める前に サーバーに **RHEL** がインストールされている必要があります。

サーバーが Web にアクセスできる必要があります。

- 1 **yum** 更新プログラムを実行します。

```
# yum
```

- 2 質問に答えて選択内容を決定したあと、パッケージをダウンロードしてインストールします。

`yum` を使用して、システムを定期的に更新する必要があります。

詳細は、マニュアルページを参照してください。次のように入力します。

```
# man yum
```



# 索引

---

## B

### BIOS

- 最適なデフォルトのロード
  - Linux, 22
- ブートモード、設定 (Linux), 22-23

## L

### Legacy BIOS

- ブートモード
  - Linux, 22-23

## O

### Oracle ILOM

- リモートコンソールアプリケーション
  - Linux, 18-21

### Oracle Linux

- バージョンの更新, 43
- メディアキット, 16
- 論理および物理インタフェース名、特  
定, 26-27

### Oracle System Assistant

- Linux, 12
- OS インストール (Linux), 30-34
- OS のインストール, Linux, 9-13

## R

### Red Hat Enterprise Linux (RHEL)

- バージョンの更新, 44-45
- メディアキット, 16
- 論理および物理インタフェース名、特  
定, 26-27

## S

### SUSE Linux Enterprise Server (SLES)

- バージョンの更新, 43-44
- メディアキット, 16
- 論理および物理インタフェース名、特  
定, 27-29

## U

### UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) BIOS

- ブートモード
  - Linux, 22-23

## い

### インストール

- ツールおよびドライバ
  - Linux, 40
- リモートセットアップ (Linux), 18-21
- ローカルセットアップ (Linux), 17

お

オペレーティングシステム  
サポートされているバージョン  
Linux, 10  
バージョンの更新, 43

こ

更新  
OSバージョン, 43  
最新情報  
Linux, 10

さ

最適なデフォルト  
ロード  
Linux, 22  
サポートされている  
オペレーティングシステム  
Linux, 10

し

手動による OS インストール, Linux, 12  
手動による OS インストール (Oracle Linux), 34-36  
手動による OS インストール (RHEL), 38-40  
手動による OS インストール (SLES), 36-38

せ

設定  
BIOS ブートモード  
Linux, 22-23

そ

ソフトウェアおよびハードウェア  
情報  
Linux, 10

つ

ツールおよびドライバ  
インストール  
Linux, 40

と

ドキュメント  
最新版の取得  
Linux, 10

は

ハードウェアおよびソフトウェア  
情報  
Linux, 10

ふ

ファームウェア  
更新情報  
Linux, 10  
プロダクトノートドキュメント, Linux, 10

ほ

補助付き OS インストール  
Linux, 12, 30-34

め

メディアキット、OS のインストール, 15

り

リモートインストール、セットアップ  
(Linux), 18-21

---

ろ

ローカルインストール, セットアップ (Linux), 17

